



〈息子と2人で行った〉
**アメリカ西部アドベンチャー
 ドライブ旅行の記録(その4)**
**10-Day Adventure Driving Tour
 in the U.S.A. by Nory Koinuma**

(第4回) カジノの街と巨大な岩と谷の渓谷

今回は、人生初体験の超酷暑、旅のハイライトの1つである国立公園、そして今回の旅における最大の危機を紹介します。エピソードが多いので、4ページ拡大版です。

1. 第5日 (ロサンゼルス～ラスベガス～フーバー・ダム)

(1) ラスベガスを目指す (Las Vegas)

今日の最初の目的地はネバダ州のラスベガスでした。同市はカジノの街として有名ですが、小学生の息子を連れてカジノに入ることはできません。もっとも、元々ギャンブルにまったく興味のない私にとっては単なる通過点の都市に過ぎません。しいて言えば、私の大好きなテレビドラマである「CSI」の舞台となっている街であったので、警察署が見つかればぜひ訪れてみたいという期待はありました。

ロサンゼルスからラスベガスへはインターステート15号線を300kmほど走らなければなりません、午後1時には「CSI」で見慣れたビル群が砂漠の中に現れてきました。同市観光のメインであるラスベガス・ブルバード(通称「ストリップ」)を通ると、カジノを備えた巨大なホテルが道の両側にひしめき、「これぞラスベガス!」という景観でした。しかし、楽しみにしていた警察署は結局見つかりませんでした。(街の様子はビデオに撮ってあります)



(2) 「天然のサウナ」のフーバー・ダム (Hoover Dam)



ラスベガスの南東約50kmのところ、コロラド川を堰き止めたフーバー・ダムがあります。砂漠の中にラスベガスという大都市ができたのは、このダムから得られる電力と水があったからです。都会に関心のない私にとっては、むしろこちらの方が訪問先として魅力的でした。

ところが、ラスベガスに着いた時点ですでに華氏104度(40℃)を指していた気温計は、ダムに着く頃には華氏113度(45℃)に達していました。駐車場で車を降りると、本来なら涼しさを運んでくるはずの風が熱風として吹きつけ、強い日差しがTシャツに隠された肌にも突き刺さってきます。もはやそこは天然のサウナであり、長時間とどまれば熱中症で死んでしまいそうな恐怖感さえ感じました。早々と記念写真を撮り、逃げるようにして自分の車に戻ったのは言うまでもありません。

なお、この日は翌日に行きたい場所にできるだけ近づきたかったので、ラスベガスからさらに100km以上北の、ユタ州との州境にある小さな町のモーテルに泊まりました。

2. 第6日（ザイオン国立公園～グランド・キャニオン国立公園～…）

(1) 巨岩がそびえるザイオン国立公園（Zion National Park）

6日目の最初の訪問地は、美しい巨岩の山々が見られることで有名なザイオン国立公園でした。ユタ州に入り、目的地方向へ進んで標高を上げて行くと、目の前に巨岩をかかえた山が見えてきました。そして、公園ゲートで入園料（25ドル）を払い、ビジターセンターに着く頃には、ほぼ360度を巨岩の山に囲まれていました。

ここには、ウォッチマン（the Watchman）とかテンブルズ・アンド・タワーズ（Temples and Towers）などと名付けられた2,000mを超える巨岩の山々がたくさんあります。それらの岩山の色は白、ピンク、赤茶と様々で、実に美しい色合いを見せてくれます。そして、その美しい景色は公園内を東へ貫く「ザイオン＝マウント・カーメル・ハイウェイ」という未舗装路を走っている時に頂点に達しました。

なお、元の計画ではこの後にもっと不思議な巨岩の風景が見られることで有名なブライス・キャニオン国立公園を訪れる予定だったのですが、進行方向に対して200km以上余計に走らなければならなかったため、そこへ行くのはあきらめることにしました。



ウォッチマン



テンブルズ・アンド・タワーズ



長瀨の岩畳のような波形の山肌

(2) グランド・キャニオン国立公園ノース・リムへ（On the way to Grand Canyon）

ザイオンの渓谷を抜けると、高原地帯を高速で快適に走ることができました。次に目指すのは、今回の旅のハイライトの1つであるグランド・キャニオンです。しかも、大観光地になっているコロラド川南側のサウス・リムではなく、「通」の人しか行かないと言われている北側のノース・リムです。

目指す場所から100km近く離れている最寄りの町（集落？）を過ぎると、道は徐々に高原道路から山岳道路に変わってきました。周囲の木々も標高が6,000フィート（1,800m）を超えたあたりから針葉樹が増えてきます。その後、道路は20km以上にわたって湿原のような場所を走り抜け、白、黄、赤、紫などのかわいい草花が咲き乱れる草原を楽しむことができます。ようやく公園ゲートに到着して入園料（25ドル）を払いますが、ノース・リムまではまだ20km弱あります。その上、途中でリスや鹿を見かけては車を停めたりしたので、目的地に着いたのは午後3時半を過ぎてしまいました。



ノース・リムに向かって
快適に高速ドライブ



20km以上にわたって広がる
針葉樹林帯と湿原らしき草原



ノース・リムに到着

(3) 圧倒的な迫力のグランド・キャニオン(Grand Canyon National Park North Rim)

実は、グランド・キャニオンのサウス・リムには26年前の留学時に来たことがありました。その時は、目の前に見える距離感のない壮大な光景に「地球上にこんなところがあるのか!」と驚嘆したのを覚えています。そして、丸一日その景色を楽しみました。はたしてノース・リムから眺めるグランド・キャニオンはどうでしょうか?

駐車場に車を置き、ノース・リムを訪れる観光客の多くが泊まる唯一の宿泊施設であるロッジの脇を抜けると、木々の間から26年前にも見た信じられない光景が目に入ってきました。そして、ノース・リムで最も人気のあるブライト・エンジェル・ポイントという展望台に行くと…、Wow! This IS THE canyon! (これぞまさにあの溪谷だ!) という言葉が自然に口から出てきました。

対岸のサウス・リムまでの距離は約30km。つまり、溪谷の幅がそれだけあるのです。対岸は空が晴れているのにもかかわらず霞んでいます。そして溪谷の深さは2,000m。手すりのある展望台からでも下をのぞくと足がすくんでしまいます。国立公園の景色に飽きていた息子もさすがにここの雄大さには驚いたようで、カメラを持って展望台のあちこちを行ったり来たりしては写真を撮り回っています。ところが、遊歩道の幅は1.5mほどしかなく、自然石を利用したごく低い石で路肩が作られているだけなので、足を踏み外そうものなら谷底まで真っ逆さまに落ちてしまう可能性があり、見ているこちらがヒヤヒヤしました。



ブライト・エンジェル・ポイントにて



地平線は30km先のサウス・リム
そこまで複雑な形状の谷が続く



きれいな模様が楽しめるのは
ノース・リムだけ

(4) グランド・キャニオンは野生動物の宝庫 (Wild life in Grand Canyon)

グランド・キャニオンへの道のりでは、手つかずの植物の他にたくさんの野生動物に出会いました。あちこちにいるリスが目に入れば、息子が写真撮影のためにすり足で近づくのをながめ、息子が「あっ!お父さん、鹿がいた!」と言えば、急ブレーキをかけて戻って森林の中にいる鹿を観察し、野生の牛(こんなのがいるんですね)を前方に発見すれば、路肩に車を寄せて草を食んでいる姿をしばらく見つめ、道路を横断している七面鳥の親子を発見すれば、車から降りて追いかけて回し…。息子にとってはこれらの野生動物との出会いが、サンフランシスコのアシカと共に一番の思い出になったようです。



人里にも姿を現すリス

七面鳥の親子



野生の牛

※鹿はビデオに撮ってあります。

(5) ガイドブックにはない絶景地 (Fantastic views from a "Scenic Highway")

グランド・キャニオンを出発したのは午後4時半過ぎ。今日の宿泊予定地であるアリゾナ州のページ (Page) という街まではまだ200km近くありました。今晚の宿を確保するために電話を入れたかったのですが、成田空港で借りてきた携帯電話はこんな山の中では「圏外」を示しています。「途中で休憩を入れても7時くらいには着くから、それから探せばいいか」と考えたのがこの後に今回の旅で最大の危機を招くことになる最初の誤算でした。そして、カーナビどおりの時間で行けると思ったのが第2の誤算でした。

その第2の誤算の原因になったのは、ガイドブックではあまり取り上げられていない、約100kmにわたって溪谷の底を走る道の景色の良さでした。その絶景は森林に挟まれた道的前方に突然現れました。あまりにも突然前方に見えてきたので、そのまま溪谷の中に飛び込んでしまうのではないかと思うほどでした。さっそく展望台に停まって眺めると、溪谷は広く長く東の方へ、地平線になってしまふほど続いていました。しかも、ハイウェイはその底にあたる平原を走るようになっているのです。その道を走り続けると、マーブル・キャニオン (Marble Canyon) という文字どおり大理石のような色をした断崖のところどころにやってきました。そして、そこにはコロラド川の溪谷を橋の上から眺められるというナバホ橋 (Navajo Bridge) がありました。もちろん、そこでも車を止め、実際に橋を徒歩で渡って溪谷の眺めを楽しんだのは言うまでもありません。



雲の大きさがわかるほど広い
パーミリオン・クリフ



左の写真の草原の中を走る



ナバホ橋の上から見た
コロラド川上流方面

(6) 今回の旅で最大の危機「宿が見つからない！」 (Biggest crisis in the trip)

ページに着いたのは夜8時頃でしたが、私の中では2日目に経験したように、飛び込みでも何とか宿が見つかるだろうという甘い期待がありました。ところが、ページはレイク・パウエル等の観光地のだ真ん中にある街であることを知らず、その日は金曜日だということも忘れていました。大手チェーンのモーターを3軒訪ねたのですが、どこでも "Sorry, we are all sold out." という返事。しかも、どこでも「この街のホテルは全部予約でいっぱいだよ」と言われ、キャンセル待ちも受け付けてくれません。もちろん、そこであきらめるわけにはいかないので、何度も何度もしつこくいろいろなモーターに行きついで頼んだり、電話でホテルを斡旋する観光局に問い合わせたりしましたが、空き部屋は見つかりません。断られる度に、車で待っている息子に「ごめん、ここもダメだった…」と言わなければならないのがとても情けなく思いました。そんな私の姿に同情したのか、再度訪れた最初のモーターの受付の男性に、「進行方向に110kmくらい行った街にモーターがあるが、電話してみるか？」と言われました。藁をもつかむ気持ちで電話をすると、幸いにも空き室があることがわかり、そこへ向かうことにしました。

ただ、ここからも大変な道のりでした。街灯もない真っ暗な山岳地帯の狭い道路を高速道路並みのスピードで100km以上も走らなければなりません。前を行くトラックに離されないよう必死に食らいつき、対向車のヘッドライトのまぶしさに耐え、ようやく10時過ぎにそのモーターに着きました。モーターに着いてみると、「トイレとシャワーは部屋にはなく共同だがいいか？」とのこと。しかし、もう断る元気はありません。条件はあまりよくありませんでしたが、喜んでそこに泊まることにしました。

<次回予告> 次回は西部劇でおなじみのあの場所とちょっと珍しい場所に案内します。